

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	生活科学科 生活科学専攻				8	8	7	
	生活科学科 食物専攻				8	8	7	
	保育科				8	8	7	
	言語コミュニケーション学科				8	8	7	
	音楽科				8	8	7	
	商科				8	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024907/42.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024792/15.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	無職	2022. 4. 8 ～2024. 4. 7	財務担当
非常勤	会社役員	2022. 4. 8 ～2024. 4. 7	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。											
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)											
<p>全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考（オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー）</p> <p>【作業日程】</p> <table border="0"> <tr> <td>1月30日(月)～2月10日(金)</td> <td>2023年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業</td> </tr> <tr> <td>2月13日(月)～2月27日(月)</td> <td>教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック</td> </tr> <tr> <td>2月28日(火)～3月6日(月)</td> <td>学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告</td> </tr> <tr> <td>3月7日(火)～3月13日(月)</td> <td>学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出</td> </tr> <tr> <td>3月16日(木)～</td> <td>次年度時間割発表 学生閲覧開始</td> </tr> </table>		1月30日(月)～2月10日(金)	2023年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業	2月13日(月)～2月27日(月)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック	2月28日(火)～3月6日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告	3月7日(火)～3月13日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出	3月16日(木)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始
1月30日(月)～2月10日(金)	2023年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業										
2月13日(月)～2月27日(月)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック										
2月28日(火)～3月6日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告										
3月7日(火)～3月13日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出										
3月16日(木)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始										
授業計画書の公表方法	http://ptl.bunri-u.ac.jp/syllabus/										
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。											
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)											
<p>学年当初に示す授業計画(シラバス)に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則および履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>											
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。											

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA の算出方法】

学期末に、各科目の成績評価の得点を、下表により 4, 3, 2, 1, 0 の数値 (グレート・ポイントという=GP) に置き換える。GP に当該科目の単位数を乗じて、その合計を総履修単位数で除する。(成績通知書の表記は小数第 3 位を四捨五入したものとす。)

評価	得点	G P
優	90～100	4
	80～89	3
良	70～79	2
可	60～69	1
不認定／再試	0～59	0
追試／保留／取消 通年科目の途中評価	対象外	

GPA 算入科目：卒業要件の対象科目

(注) 次の科目も算入される。

- ・ 欠席時数が授業時数の 3 分の 1 を超え、定期試験を受験できなかった科目
- ・ 学期の途中で履修をやめたが登録取消の手続きをしていない科目
- ・ 再履修科目の過去の不認定科目

【GPA の算出式】

当期 GPA =

{ (当該学期の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該学期の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

年間 GPA =

{ (当該年度の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該年度の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

累積 GPA =

{ (当該学期までの GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該学期までの GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

【実施状況】

各学期末に卒業要件の科目を対象とし、上記方法により GPA を算出している。成績分布の図表は、学科学年ごとに作成する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024914/50.pdf キャンパスガイド等に記載し、入学時に全学生に配布 成績通知書発送時に説明文書を送付 学生ポータルサイトに説明文書を掲載
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学の教育理念に基づき、各学部・各学科において、どのような資質・能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかについてディプロマ・ポリシーを定め、「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心・態度」「技能・表現」の 4 つの観点から具体的に示して公表している。

加えて、卒業に必要な単位・年限を明示するとともに、卒業に係る学長と教授会の役割についても定めている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024914/50.pdf キャンパスガイドに記載し、入学時に全学生に配布
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036634/2022kessansyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036634/2022kessansyo.pdf
財産目録	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036641/2022zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036436/gijyo.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036863/2022kanjikansahoukokusyo.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00013659/r4jiko-c.pdf https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00013628/bunri_college229.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00013604/bunri_college129.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 短期大学部 生活科学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)
(概要) 生活科学科は、生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。 ① 生活科学専攻は、衣食住における「ものづくり」とおして、創造力、問題発見・解決能力を身につけ、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。 ② 食物専攻は、食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、食品科学技術認定証の資格を取得し、食のスペシャリストを養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)
(概要) 生活科学専攻 【知識・理解】 1. 生活に関する基礎知識を学び幅広い視野を身につけている。 2. 生活に必要な「ものづくり」知識と、企業や社会で求められる「ものづくり」知識を身につけている。 【技能・表現】 3. 身につけた「ものづくり」の知識・技能を活用し、表現することができる。 【思考・判断】 4. 独創性のある発想を生み出す努力ができる。 【関心・意欲・態度】 5. 目標を実現するための計画を立て主体的に行動することができる。 6. 他者と協力し合って目標に向かって取り組むことができる。 食物専攻 【知識・理解】 1. 栄養と健康と食に関わる基礎および専門分野の知識を獲得している。 【技能・表現】 2. ひとびとの健康管理に携わる技術を修得し、栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけている。 【思考・判断】 3. 修得した知識や技能をもとに思考・判断を行い、課題発見・解決をすることができる。 4. チームの一員として個々の役割を理解し、協調性を持ちかつ主体的な行動がとれる。 【関心・意欲・態度】 5. 食や健康について自主的に探究し、向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を示すことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009300/junior-cp.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)

(概要)

生活科学専攻

生活科学専攻は、「ものづくり（ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アート）」業界で働くための教養と基礎知識、そして業界別の専門能力を養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を編成している。

1. 1年次

- 1) 社会に必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と、キャリア能力を養成する講義科目を配置する。
- 2) 専門能力を養成するうえで基礎知識となる、ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。
- 3) 専門能力養成の重要な基礎技能である、デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。
- 4) ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。

2. 2年次

- 1) ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各分野では制作技能の向上を図る演習科目を配置し、卒業制作展で発表している。
- 2) パティシエのため、食品に関する専門的な知識を修得する講義科目を配置する。
- 3) ブライダルコーディネートではブライダルファッションショーの開催という共同作業を通じて、ブライダル業界の知識修得のみならず、社会における基本的思考能力や状況判断能力を養成するようにしている。

食物専攻

食物専攻は、栄養士・食のスペシャリストを養成するというディプロマ・ポリシー実現のため、次の方針で編成している。

1. 教育内容・方法

- 1) 社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるため一般総合科目を配置し、「文理学」で調理の基礎や食文化を学ぶ内容を設定している。
- 2) 1年次は、食品・栄養・調理に関する専門的な知識を理解するため、前期に講義を中心とした基礎的内容を学習し、後期に実験・実習で検証するよう設定している。
- 3) 学生が幅広く関心のある科目を履修できるよう、栄養士の基礎科目及び専門科目に加えて、食品関係資格に通ずる科目、教職に関する科目を設置し、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。
- 4) 2年次は、基礎から応用につながるような講義と実験・実習を取り入れ、卒業時に応用・実践力をそなえた栄養士を育成するため、系統立てた教育内容を実施している。
- 5) 向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を身に付けるため、食品や栄養学的な知識を基にした調理技術、ライフステージおよび疾病に対応した献立作成能力、食育を行える栄養指導能力をつけるなど、多様な実験・実習科目を提供している。
- 6) 2年後期の「給食運営管理実習（臨地実習）」では、集団給食施設において、これまで学習した専門的知識と技術を統合するとともに、チームの一員として役割を理解し、協調性を持ちかつ主体的な行動がとれるような育成を目指している。

2. 教育評価

学習成果は、各科目シラバスに到達目標と成績評価方法を明記し、それに基づいて到達度を評価する。また GPA を算出し、総合成績評価を行っている。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページ <https://www.bunri-u.ac.jp/files/00009294/junior-ap.pdf>,
キャンパスガイド入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)

<p>(概要)</p> <p>生活科学専攻</p> <p>(1) 感性が豊かで、表現することに強い興味・関心がある人</p> <p>(2) パティシエとして創作の基礎とその美的センスを磨きたい人</p> <p>(3) ブライダルやデザインなどに興味・関心がある人</p> <p>食物専攻</p> <p>(1) 人とのつながりを大切に、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人</p> <p>(2) 健康や栄養、調理に興味・関心があり、食に関する学習に継続的に取り組むことができる人</p> <p>(3) 各種資格取得に励み、食の専門家をめざす人</p>
--

学部等名 短期大学部 保育科

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>保育科は、次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>

<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>1. 社会人として必要な教養を身につけている。</p> <p>2. 保育者として求められる専門知識・技能を体系的に修得している。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>3. 保育に関する専門知識・技能をふまえた保育実践力を身につけている。</p> <p>4. 保育者としてふさわしい豊かな感性と表現力を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>5. 子どもや子どもを取り巻く状況の理解に基づいて保育を構想し、実践できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>6. 社会の一員としての自覚を持ち、他者と協働して主体的に問題解決に取り組むことができる。</p>
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009300/junior-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>

<p>(概要)</p> <p>保育科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を習得するために次の方針で編成している。</p> <p>1. 2年間で、全学生が保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得することができる。</p> <p>2. 社会人として求められる幅広い教養を身につけ、心身ともに健康な人間を育成するために、一般総合科目を配置している。</p> <p>3. 保育者の養成科目について、順序性を考慮し編成している。</p> <p>4. 子どもの心身の発達について広く理解し、支援について学ぶために、子どもの心身の発達に関わる科目を配置している。</p> <p>5. 保育者の役割と倫理について理解し、保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるため、専門知識・技術の修得に関わる科目を配置している。</p> <p>6. 保育現場での課題を発見し、新たな課題に対し自主的に問題解決に取り組むことがで</p>
--

<p>きる柔軟で創造的な思考力を持った人材を育成するために、実習科目、保育・教職実践演習（幼稚園）を配置している。</p> <p>7. 学生の主体性と協働性を養うことを目的とし、保育セミナー、おとぎのくに、ペンギンクラブ、子育て支援体験などの学科行事に参加・推進する機会を設けている。</p> <p>8. 個々の学生の個性を伸ばし、表現力を養うことを目的として「音楽」等独自の科目や「おとぎのくに」など対外的な行事を設けている。</p> <p>9. 社会の一員としての自覚を持ち、地域の人々と良好な関係が築けるよう、子育て支援のボランティア活動への参加を、キャリア教育の一環として推奨している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/files/00009294/junior-ap.pdf, キャンパス内 入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 保育者をめざして努力できる人</p> <p>(2) マナーを尊重し、他者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を築くことができる社会性のある人</p> <p>(3) 子どもの保育及び教育に関心を持ち、子どもに対し豊かな感性と温かい愛情をもって接し、人のために役立ちたい人</p>
<p>学部等名 短期大学部 言語コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>言語コミュニケーション学科は、プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>1. 言語に対する分析的な視点が形成されている。</p> <p>2. 文学・音楽・絵画・動画など、さまざまなジャンルの芸術を通じ、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>3. 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得している。</p> <p>4. 対話型コミュニケーション能力、すなわち、情報を正確に理解する能力に加え、自己の主張によって相手を説得できる表現能力が備わっている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>5. 意見・評価・批判の交換といったプレゼンテーションの練習によりチームで働く力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>6. 異文化に対する理解・知識をもとに、自分が暮らす国や地域のものとは異なる文化を許容し、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009300/junior-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>

<p>(概要)</p> <p>言語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次に挙げるディプロマ・ポリシーによる要件に連動させながら編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語に対する分析的な視点を形成するため、また、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めるため、専門教育科目のうち「言語とコミュニケーション」と「日本語表現法」の履修を奨励し、「英米文化論」、「英米文学」、「異文化間コミュニケーション」、「日本文化論」、「日本文学」などを専門教育科目の核として設置している。また、英語の基礎・実践的英語力の養成分野においては、「英会話」や「実践英語」などの専門教育科目群を設置している。 2. 読み解く技術を習得するため、また、相手を説得できる表現能力を養成するため、「プレゼンテーション演習」などの専門教育科目を軸に、学んだ事柄の実践的な運用ができるような訓練を繰り返す。 3. チームで働く力を養成するため、また、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立するため、主に「キャリアプランニング」、「観光総論」、「旅行業務入門」などの専門教育科目群を設置し、社会人としての基礎力を養う。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/files/00009294/junior-ap.pdf, キャンパス内 入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 観光ビジネス業界, 航空ビジネス業界などに興味のある人 (2) 英語学習に興味のある人 (3) 文学・音楽・絵画・動画などを通じた異文化理解に興味のある人
<p>学部等名 短期大学部 音楽科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽科は、音楽学に関する学術を教授研究し、音楽にかかる専門的知識・技能、豊かな教養を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>短期大学部音楽科の教育課程において、所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>●音楽療法コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】 2. 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる、“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】 3. 高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】 <p>●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】 2. 上記 1 に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】

3. 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】
4. 専門分野のみならず幅広い教養を身に付け、音楽関係、教育関係、一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009300/junior-cp.pdf,
キャンパスガイド 入学時配布)

(概要)

短期大学部音楽科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。

●音楽療法コース

1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（2種）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。
2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。
 - 1) とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。
3. 2年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員および学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
4. 2年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。

●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース

1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。
2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。
3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から専門的な内容の科目まで、順次配置する。
4. 中学校教員免許（2種）を取得するため、また音楽指導者をめざすための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。
5. 音楽療法士（2種）を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。
6. 2年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、2年間の研究成果を評価する。
7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には発表する機会を提供する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009294/junior-ap.pdf,
キャンパスガイド 入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)

(概要)

- (1) 音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人
- (2) 音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人

学部等名 短期大学部 商科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 商科は、ビジネスにかかわる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009317/junior-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 【知識・理解】 1. 社会人としての一般常識やビジネス活動の基本となる専門知識を習得している。 【技能・表現】 2. ビジネスの現場で求められる実践的能力を修得し、自分の意見を表現できる。 【思考・判断】 3. 自律的な思考力や状況判断能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 4. 広い視野で社会の動きに関心を持ち、現状と課題について自主的に探究できる。 5. 主体性を持って自分の役割を果たすとともに、キャリア意識を持ち続けることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009300/junior-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 商科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している能力を習得するために次の方針で編成している。 1. ディプロマ・ポリシーを実現するために5つの科目群を配することで、履修科目が特定領域に偏ることなく、社会人に求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。 科目群は「教養」、「キャリア能力」、「コミュニケーション能力」、「実務能力」、「専門能力」の5つである。 2. 各科目群における科目の配置は以下の通りである。 「教養」には社会人として弁えるべき話法、礼儀やマナー、情報の取扱の基本、生活を規律する基本的な法律を1年次の科目として配置している。 「キャリア能力」科目群は、入学後1年足らずで就職活動が始まることに鑑み、社会人としてのキャリア形成や人生設計を自らの力で方向付けをするための科目を配置している。 「コミュニケーション能力」科目群には、コミュニケーション能力を育む科目を配置している。 「実務能力」科目群には、簿記やパソコン、医療事務やビジネススキルに係る科目を配置している。これらの科目は、ビジネス社会で能力評価の参考とされることが多く、資格取得により到達レベルの判定が可能である。 「専門能力」科目群には、経済、商業・経営、および法律系科目を配置している。広い視野で物事を考え、柔軟な発想のできる人材養成に繋がると考えている。 なお、簿記とパソコンはビジネスの幅広い領域で必要とされることに鑑み、一部を必修科目としている。また、経営学および経済学も、社会の現状を捉える際の基本的領域と判断し、一部を必修科目としている。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ` https://www.bunri-u.ac.jp/files/00009294/junior-ap.pdf, キャンパスガイド`入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要) (1) 社会で必要とされる各種資格取得に励み, 就職に活かしたい人 (2) 政治や経済などに興味・関心をもつとともに, 自分の適性に相応しい進路を模索したい人 (3) 他者とコミュニケーションを図り, 良好な人間関係を築くことができる社会性のある人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024822/23.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生活科学科	—	5人	2人	1人	0人	0人	8人
保育科	—	3人	4人	2人	0人	0人	9人
言語コミュニケーション学科	—	3人	2人	2人	0人	0人	7人
音楽科	—	2人	2人	0人	0人	0人	4人
商科	—	2人	2人	1人	0人	0人	5人
一般総合科目	—	0人	2人	0人	2人	0人	4人
b. 教員数 (兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
3人		72人				75人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/teacher.html					
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学科	80人	22人	27.5%	160人	41人	25.6%	—	0人
保育科	70人	18人	25.7%	140人	33人	23.6%	—	0人
言語コミュニケーション学科	20人	3人	15.0%	40人	14人	35.0%	—	0人
音楽科	20人	0人	0.0%	40人	4人	10.0%	—	0人
商科	40人	20人	50.0%	80人	48人	60.0%	—	0人
合計	230人	63人	27.4%	460人	140人	30.4%	—	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	就職者数 (自営業を含む。)		
		進学者数	就職者数	その他
生活科学科	25人 (100%)	3人 (12.0%)	19人 (76.0%)	3人 (12.0%)
保育科	14人 (100%)	0人 (0.0%)	14人 (100.0%)	0人 (0.0%)
言語コミュニケーション学科	14人 (100%)	1人 (7.1%)	10人 (71.4%)	3人 (21.4%)
音楽科	3人 (100%)	2人 (66.7%)	1人 (33.3%)	0人 (0.0%)
商科	20人 (100%)	1人 (5.0%)	14人 (70.0%)	5人 (25.0%)
合計	76人 (100%)	7人 (9.2%)	58人 (76.3%)	11人 (14.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考（オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー）</p> <p>【作業日程】</p> <p>1月30日(月)～2月10日(金) 2023年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業 2月13日(月)～2月27日(月) 教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック 2月28日(火)～3月6日(月) 学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告 3月7日(火)～3月13日(月) 学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出 3月16日(木)～ 次年度時間割発表学生閲覧開始</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学年当初に示す授業計画（シラバス）に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則及び履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要な 単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">短期大学部</td> <td>生活科学科 生活科学専攻</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>生活科学科 食物専攻</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>保育科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>言語コミュニケーション学科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>音楽科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>商科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2">GPAの活用状況（任意記載事項）</td> <td colspan="3">公表方法：</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)</td> <td colspan="3">公表方法：</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	短期大学部	生活科学科 生活科学専攻	62 単位	有・無	単位	生活科学科 食物専攻	62 単位	有・無	単位	保育科	62 単位	有・無	単位	言語コミュニケーション学科	62 単位	有・無	単位	音楽科	62 単位	有・無	単位	商科	62 単位	有・無	単位	GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：			学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																																				
短期大学部	生活科学科 生活科学専攻	62 単位	有・無	単位																																				
	生活科学科 食物専攻	62 単位	有・無	単位																																				
	保育科	62 単位	有・無	単位																																				
	言語コミュニケーション学科	62 単位	有・無	単位																																				
	音楽科	62 単位	有・無	単位																																				
	商科	62 単位	有・無	単位																																				
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：																																						
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：																																						

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024938/60.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
生活科学科	生活科学専攻	630,000円	200,000円	336,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	食物専攻	630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
保育科		630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
言語コミュニケーション学科		630,000円	200,000円	336,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
音楽科		860,000円	250,000円	466,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
商科		630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費

※その他の納付金

- ・入学手続き時のみ研修部入会金 1,000円
- ・休学する者は学費等を免除、ただし休学在籍料として 120,000円(年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>1. 入学前教育 総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目のレポート提出等の入学前教育を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。この取組は、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。</p> <p>2. 新入生導入教育等 平成 19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講している。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。また、低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。</p> <p>3. シラバスの充実 学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及びWeb上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成 25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成 29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー(学生からの相談や質問を受け付ける時刻と場所を明示)」を記載している。</p> <p>4. GPA 制度の採用 平成 22(2010)年度より GPA(Grade Point Average)を完全実施し、教育のさらなる質保証に努めている。成績通知書には、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期 GPA」と当該年度の「年間 GPA」、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積 GPA」の3種類を記載する。なお、平成 23(2011)年度からは、全ての学生に「当期 GPA」を表記している。令和 3(2021)年度より各学科ごとに GPA による個別指導基準(学科・学年毎の下位 1/4GPA 値程度)を定め、成績下位の学生に対して指導・助言している。</p> <p>5. クォーター制の導入 平成 26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週 2 回行わ</p>

れるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取組を強化することができる。

6. ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）の発行

令和4(2022)年度の卒業生(全学部・学科)から、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を学科ごとに発行し、学習成果の可視化を図っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 組織

本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と地域及び世界の発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。

2. 取組の概要

本学では特色ある各学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をとおした支援は就職支援部で実施している。

また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国16カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。

採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取組を推進している。

(1) 一般企業対策支援

各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。1人1人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。

また、卒業後も随時の就職相談に対応しており、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。

○キャリア推進プログラム

- ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。
- ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。
- ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。

○就職支援プログラム

- ・就職ガイダンス、独自作成の「就職活動の手引き」による学科別就職説明会を、卒業前年度の学生に対し年3回実施。
- ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座)
- ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施
- ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施
- ・就職状況調査を年3回実施
- ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施

- ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施
- ・学内合同企業説明会や個別の企業説明会の実施
- ・学内就職支援システム及び求人受付 NAVI による就職情報のインターネット提供
- ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング

(2)公務員対策支援

全学共通教育センターが「公務員試験対策講座」を開講し、筆記試験対策をはじめ、自治体ごとの詳細な情報を提供するとともに、随時、相談に応じている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。

(3)教員・保育士対策支援

全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、次年度対策として「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○保健衛生

1. 各種健康診断
2. 健康相談
3. 救急・応急処置
4. 健康の保持増進及び予防啓発
5. 健康診断書の発行
6. 各種調査・報告
7. 学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求

○メンタルヘルス

1. 精神疾患の相談
2. 対人関係の相談
3. 心理・性格の相談
4. 修学上の相談
5. 発達障害の相談
6. ハラスメント相談
7. 保護者からの相談
8. 学生に関する教職員の相談
9. 専門機関への紹介

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bunri-u.ac.jp/research/>
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F236310110281
学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		27人	28人	30人
内 訳	第Ⅰ区分	-	13人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				30人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。